

## これからの日本と台湾が見えてくる

## 1・1 駐日代表が元旦の祝辞

許世楷駐日代表が元旦の祝辞。「台日関係がますます良好な関係を築けるよう、一層努力して参りたい」と。また「日本からの観光客を台湾の地方にどう引きつけるかが課題。日本人や日本の歴史に関する名所、旧跡に標識や記念碑を立てると言った誘致活動を関係機関にお願いしている」ことも明らかに。

## 1・4 空前の日本語ブーム

朝日新聞によると、台湾では日本語学習が空前のブーム。昨年十二月の日本語能力試験の受験者数は過去最高。高校の第二外国語で日本語を学ぶ生徒は二万人を超えたという。もともと親的な土壌がある上、アニメやTVドラマなど日本発のポップカルチャーの流行がブームを後押ししているようだ。

## 1・5 台湾新幹線が開業一周年

日本の新幹線技術を海外で初採用した台湾高速鉄道が開業して一年。十二月末までの累積乗客数は千五百五十五万人。台湾西部全域

で「一日生活圈」を実現したとされる。

## 1・8 保護される日本時代建築

朝日新聞によると、台湾には約二十カ所の日本時代の建築物が史跡や歴史建築に指定され、保護を受けている。民進党政権誕生後、こうした動きが加速したという。行政院文化建設委員会は「日本時代は多くの建造物が建てられ、台湾の建築文化に多大な影響を与えた。残された日本建築はそうした歴史の証明になる」と話している。

## 1・9 長崎県産ミカンに期待

長崎新聞によると、長崎県産のミカンが昨年十二月に初めて台湾に輸出、現地の百貨店などで販売された。すでにイチゴも輸出されており、JA全農県本部は県産農作物の販路拡大に期待を寄せている。

## 1・9 石垣の魅力を伝えたい

石垣空港にチャーター便を乗り入れる華信航空の親会社、中華航空の担当者らが大浜長照・石垣市長を訪問。今年二月に六月に十三便を運航する計画を明らかにし、「石垣の魅力在台湾の人に知ってもらい、チャーター便を飛ばしたい」と述べた。

## 1・19～20 人気定着の朝日町産リンゴ

台北市の百貨店八店舗で、山形県朝日町産リンゴを売り込むフェア。旧正月に合わせた贈答品として輸出した八トンが高値で完売した。フェアは三年連続で、同町産リンゴは人気商品として定着している。

## 1・22 修学旅行生を農家が受け入れ

青森県十和田市は高山市の修学旅行生を二泊三日の日程で受け入れ、市内農家への宿泊や農業体験などをさせた。

## 1・22 人気の道産品で商談会

北海道産食品の人氣が高まりを見せる台湾市場での販路拡大を目指す「北海道商談会in台北2008」が台北市内のホテルで開催された。

## 1・22～23 チャーター便を検討中

与那国町の要請を受け、「国際カジ釣り大会」に合わせた与那国空港へのチャーター便乗り入れを検討する復興航空の担当者が同空港を視察し、「十分に可能性がある」と。

## 1・30 地吹雪体験に参加者急増

陸奥新報によると、五所川原市の名物「地吹雪体験」に今冬、台湾からの参加者が急増している。

## 2・1 ノービザ滞在期間が延長

日本人観光客のノービザ滞在が三十日から九十日に延長された。日本が平成十七年に同様の措置をとったのに対応した。

## 2・7 高雄でキノコ生産工場

キノコ生産大手の「ホクト」が高雄市郊外にキノコ生産工場を建設すると発表した。平成二十一年から収穫を始める。

## 2・10 出雲で台湾人客が増加

平成十九年の一年間に松江、出雲地域の有料観光施設を利用した外国人観光客数は前年比四割増の約三万四千九百人で、国別では台湾人観光客が同七割増の一万四千五百人で最多だ。

## 2・15 二二八事件の聞き取り調査

「台湾二二八事件沖繩調査委員会」の台湾側メンバーが沖繩県で、同事件に巻き込まれた同県民に聞き取り調査。事件では四人の県民が行方不明になっている。同委員会は日本人犠牲者への補償金支給を訴えて行くという。

## 2・16 北海道で天灯祭り

願い事を書いた紙製のランタンを空に飛ばす台湾の伝統行事・天灯祭りが北海道津別町で初めて行われた。

## 2・17 阪急百貨店が台北で出店へ

朝日新聞によると、阪急百貨店が台北市に初出店することが明らかに。統一企業グループとの合弁で、平成二十二年三月の開業を目指す。

## 2・18 釧路産コンブをPR

釧路昆布普及協議会が台湾を訪問し、釧路産ナガコンブのPRを開始。かつては台湾市場を席卷していたが、今では中国産に押され気味のため、挽回を図る。

## 2・18 外国人議員への最高勲章を

陳水扁総統は日華議員懇談会の佐藤信二前会長と平沼赳夫会長を総統府に招き、「台日間の実務的な友好関係の促進に尽力した」として、外国人議員に贈る最高勲章「大綬景星勲章」を授与した。両氏は「日本国民の榮譽だ」と述べた。

## 2・21 ねぶたのハネトが登場

台南県で開催した「台湾ランタンフェスティバル二〇〇八」に青森県レクダンス連絡会「ステツプメイツ」がねぶた祭のハネト姿で舞台上に登場、喝采を浴びた。

## 2・21 高雄県長に訪日要請

東京都八王子市の田中正美・副市長が楊秋

興・高雄県長を訪問。大学連盟、都市外交等の交流について意見を交換するとともに、同県長の訪日を要請。

## 2・22 台湾で「白いプリン」を製造販売

乳製品メーカー牧家は、台湾の飛牛牧場と提携し、ヒット商品「白いプリン」を同国内で製造販売を行うことを明らかにした。

## 2・22 「台湾産は安全だ」

日本の消費者の多くが「台湾産」を「中国産」と混同するなか、中国製毒餃子事件により台湾の加工食品や農産物を扱う貿易関係者が困惑しているため、台湾の対外貿易発展協会（ジェットロに相当）の葉明水副秘書長が都内で「中国産と異なる台湾産の安全性」をアピールした。

## 2・26 金沢で誘客計画

金沢商工会議所は六月の小松一台湾定期便の就航に向け、台北、高雄の経済団体と連携し、現地で観光誘客セミナーを開くなど、二〇〇八年度の事業計画案を発表した。

## 2・26 梨が縁の交流拡大を約束

亜東関係協会の陳鴻基会長らが鳥取県庁に平井伸治知事を表敬訪問。二十世紀梨を縁に展開されている台湾と鳥取県との交流を観光

や経済、文化、教育など幅広い分野で深めて行くことを約束。

### 3・4 「おしん」で観光客誘致

読売新聞によると、平成十八年度に山形県を訪れた外国人の過半数は台湾人（三万二千八百六十人）。そこで同県は二十年度に台湾に観光コーデイネーターを配置する事業などに三百二十万円を計上。リピーター確保を目指し、一層の誘致を図る方針。同県を舞台にしたドラマ「おしん」が台湾で大人気になったことに着目し、ドラマ関連の地を巡るツアーの企画なども行う。

### 3・4 ヤマトが国際宅急便

ヤマト運輸は台湾での宅配便事業の提携先である統一速達を通じて、台湾から日本への「国際宅急便」の受け付けを始めたと発表。

同地のセブンイレブン全店などを窓口統一速達が集荷し、ヤマトグループが発送や日本での配達を担う。

### 3・8 「与那国は東西を結んで発展する」

許志仁・対外貿易発展協会理事長が与那国町を訪問。与那国島と台湾が約百十キロしか離れていないとし、「台湾と沖縄は一つの経済圏。人と物の往来が自由になれば、互いに

発展する」と期待感を示した上で、「与那国は日本の西端で観光の終点だが、台湾と往来できれば東西を繋ぐ経由地になる。リゾート地としての魅力もあり、繁栄するだろう」と強調した。

### 3・9 高速艇就航の計画

琉球新報によると、与那国町の姉妹都市、花蓮市の船会社が平成二十一年を目処に双方を結ぶ高速艇を就航させる計画を進めているという。

### 3・9 13 ドラマロケで誘客に期待

日本の人気漫画「ハチミツとクロババー」を原作にした台湾のテレビドラマのロケが瀬戸大橋、直島など香川県内。県観光振興課は「ドラマの放映に合わせ、台湾でロケ地をはじめ香川の名所をPRし、誘客につなげたい」と期待している。

### 3・23 国民党勝利と産経の訴え

総統選挙で国民党候補の馬英九氏が勝利したことを受け、産経新聞は社説で「台湾は徐々に中国寄りに変わる可能性」を指摘、「台湾は日本の生命線でもある。その台湾の変化に、従来以上の関心を持ち続けていきたい」と訴えた。

### 3・25 唯一現存する狛犬

今日新聞によると、屏東県恒春の天后宮の門前にある一対の獅子の石像が、付近にあった日本時代の北門神社の狛犬であることが研究者の調べでわかった。台湾で現存する神社の狛犬はこれが唯一だという。

### 3・25 27 姉妹大学の交流

台南大学は姉妹校である埼玉大学の教授を招き、教員養成教育で意見交換を行った。両校は長年にわたって学術交流を行っている。

### 3・26 馬氏に対日関係の前進促す

フジサンケイビジネスアイによると、李登輝前総統は「台湾は技術力が必要で、そのためにも技術提携など日本との関係を良くすべきだ」と、総統選挙で勝利した馬英九氏に對日関係の前進を強く促した。

### 3・26 白川郷への台湾人客が激増

中日新聞によると、昨年、岐阜県白川村を訪れた台湾人観光客は前年の六万六千人から九万三千人へと激増。同村は台湾から中部国際空港や石川県の空港へのチャーター便が増え、金沢・白川・高山ルートツアー客が増えたためと分析している。

【永山英樹】